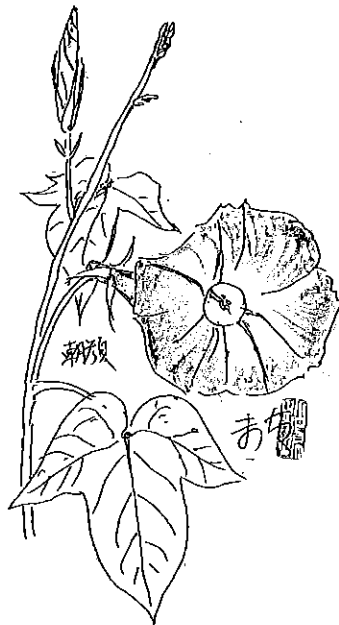


あと5回

「今日を含めてあと5回」です。1学期の授業日もそうですが西有家の給食センターで作られる給食を食べるのがあと5回なのです。みなさんをご存知かと思いますが、2学期から龍石小学校跡地に建設された新しい給食センターでの給食提供が始まります。それに先がけて現地の見学会があり、参加してきました。当然、最新の設備が配置されており、衛生面や職員の動線にも細心の配慮がされた設計となっていました。新給食センターでは、2学期からの給食提供に向け、今、最後の確認作業等が行われています。8月20日の登校日にはプレ給食として全ての学校に給食を配送し、最終確認が行われます。また、新給食センターから提供される給食は、食缶や食器等も新調されます。さて、どんな新メニューが登場するのでしょうか。プレ給食、9月1日からの本格開始が今から楽しみです。最後に、あと5回の西有家給食センターの給食を、一粒残さずおいしくいただくことで、感謝の気持ちにかえてほしいと思います。



“忍”の一文字

「今、生徒に求められる力は何か？」と問われたら、私は間違いなく“忍耐力”と答えます。情報化・多様化が進んだ現代、便利になった反面、時間に追われストレスは増すばかり。生徒も論外ではありません。昔はそれこそ“晴耕雨読”。天気によってその日の行動を決めることも多く、おおらかだったと思います。今は人の考え方や行動パターンも様々。加えて“自由という名を借りたわがまま”が通る現代。最近は何もすることなく昼夜逆転の生活をする人も少なくありません。

“蛍の光、窓の雪”は化石となってしまいました。私は「便利という窮屈さ、不便という豊かさ」という言葉がずっとひっかかかっていて、事あるごとに頭に浮かんできます。今は“日進月歩”どころか“時進日歩”の時代です。もしかしたら“秒進分歩”。学校においてもギガスクール構想をはじめIT化の波が押し寄せています。当然、時代の流れに逆らうことはできません。しかし、そちらばかりに目が向くと、最も大切な、基本中の基本である“読み・書き・そろばん”がおろそかになってしまいます。なぜ、“忍耐力”が必要か。もうおわかりでしょう。この“読み・書き・そろばん”を習得するには“忍耐力”が必要です。この力が備わってこそ、学力が伸び、情緒が安定し、情報化・多様化の波に対応する力もつくと思っています。これば勉強ばかりでなく、運動やコミュニケーション力もしかりです。現代社会を生き抜くには必要不可欠な力なのです。

余談になりますが、私もストレスを抱え、“学校に行きたくないなあ”と思うことがあります。そのときは必ず妻に「“忍”の一文字を背負って、行ってきまあ〜す」。妻は背中をたたきながら、「はい、いってらっしゃ〜い！」とかえす。なぜか、この一言に救われます。

「“忍”の一文字を背負い、“耐”を腹にくくり、頑張っしてほしい」これが私の願いです。